

公立大学法人札幌市立大学
平成24事業年度の業務実績に関する評価結果

平成25年8月

札幌市地方独立行政法人評価委員会

1 公立大学法人札幌市立大学の年度評価の方法

- (1) 年度評価は、「項目別評価」及び「全体評価」により行う。
- (2) 項目別評価は、各事業年度における中期計画（年度計画）の次に掲げる事項（大項目）の進捗状況の確認又は評価を行う。
 - ① 大学の教育研究の質の向上
 - ② 地域貢献、国際化、大学間連携
 - ③ 業務運営の改善及び効率化
 - ④ 財務内容の改善
 - ⑤ 自己点検・評価
 - ⑥ その他業務運営
- (3) 項目別評価に当たっては、まず、公立大学法人から提出された業務実績報告書等を検証し、年度計画の記載項目ごとの事業の進捗状況について、次に掲げるⅠ～Ⅳの4段階で評価を行う。公立大学法人による評価と評価委員会の評価が異なる場合は、その理由等を示す。

Ⅳ：年度計画を上回って実施している。

Ⅲ：年度計画を十分に実施している。

Ⅱ：年度計画を十分には実施していない。

Ⅰ：年度計画を実施していない。
- (4) (3)の結果等を踏まえ、年度計画の大項目ごとに、事業の進捗状況について次に掲げるS～Dの5段階で評価を行う。

なお、評価に当たっては、事前に設定した重点的に評価する小項目の実施状況を勘案した評価を行うことができる。

S：特筆すべき進捗状況にある（評価委員会が特に認める場合）

A：計画どおり進捗している（すべてⅣ又はⅢ）

B：おおむね計画どおり進捗している（Ⅳ又はⅢの割合が9割以上）

C：やや遅れている（Ⅳ又はⅢの割合が9割未満）

D：重大な改善事項がある（評価委員会が特に認める場合）
- (5) 全体評価は、項目別評価の結果等を踏まえ、中期計画（年度計画）の進捗状況全体について、総合的に評価を行う。

2 全体評価

(1) 総評

平成18年4月に開学した公立大学法人札幌市立大学は、平成21年度に学部が完成し、平成22年4月には、デザイン研究科と看護学研究科の大学院博士前期課程、平成24年4月には大学院博士後期課程を設置するなど、間断なく大学を発展させている。開学時より、デザインと看護に共通する「人間重視」の考え方を常に基本として教育研究を行っており、デザイン分野と看護分野における有為な人材の育成・輩出を目的とする地域に根ざした公立大学として、より高度な教育研究機能を備えたことから一層の地域貢献が期待されている。

平成24事業年度の業績評価としては、「項目別評価」の結果では、2項目でB評価（おおむね計画どおり進捗している）とし、そのほかの4項目についてはA評価（計画どおり進捗している）となっており、年度計画の小項目ごとの評価からも、全体としては、行うべき事業を行い、順調に業務を遂行していると評価できる。

なお、項目別評価の基礎資料となる公立大学法人札幌市立大学が策定した平成24年度の年度計画の記載項目（小項目）ごとの評価（小項目評価）においても、小項目数63項目のうち、6項目がIV評価（年度計画を上回って実施している）、54項目がIII評価（年度計画を十分に実施している）となっており、これらを合わせると63項目中60項目（95%）が年度計画実施の水準を満たしている。

また、毎年度の詳細な年度計画の評価等を通じて、大学業務全般にわたって改善に取り組んでいることが、平成24事業年度に係る業務の実績に関する報告書（以下「報告書という」）からもうかがえた。

(2) 年度計画の大項目ごとの評価の主要なポイント

ア 大学の教育研究等の質の向上

オープンキャンパスや公開講座、FD研修など、成果指標を上回って実施されているほか、内容についても充実を図っており、高く評価できる。

一方で、卒業前学生に対するアンケート調査は実施しているものの、卒業生への追跡調査については未実施となっている。卒業生の少ない今のうちから、インタビュー調査も含めて計画的に実施していく必要がある。

イ 地域貢献、国際化、大学間連携

専門職向けの公開講座については、成果指標を上回って実施されるなど、高く評価できる。

ウ 業務運営の改善及び効率化

戦略的かつ機動的な大学運営を行っていくため、理事長のリーダーシップによる経営戦略が策定されており、今後は、この戦略に沿った取組の着実な推進が求められる。

また、教員評価制度については、これまでの実施結果を踏まえ、評価項目の見直

しを行っており、引き続き、評価制度を通じて、教員の可能性を引き出していく必要がある。

エ 財務内容の改善

基金設置に関するプロジェクトチームの立ち上げや根拠規定の整備を行うなど、積極的な取組を行っていることは、高く評価できる。

また、科学研究費補助金を含む外部資金の申請率向上に向け、研修会を実施したことなどにより、申請率の向上が図られている。

オ 自己点検・評価

マネジメントサイクルによる自己点検・評価について、半期（一部四半期）ごとに、年度計画の進捗管理を行うなど、適切に取り組まれている。

カ その他業務運営

図書館機能の充実に向け、利用者に対するニーズ調査を実施したほか、司書の増員を図るなど、適切に取り組まれている。今後は、学習支援など具体的な図書館サービス機能の向上に向けた改善を行っていく必要がある。

また、節電対策として、照明の部分消灯やエレベーターの運転制限など具体的な取組に着手している。

(3) 今後の課題

- ・ 目標として検証を挙げている項目、また、Actionとして「引き続き検証を行う」としている項目については、調査を行い、結果を明らかにした上で、考察を行う必要がある。評価Ⅲの項目については、具体的な改善点を挙げ、次のプランにつなげる。また、評価Ⅳの項目については、さらに上位の目標の設定につなげる。上位の目標設定には、よりよい教育をめざすFD活動が有益である。FDにより、全学がめざすべき教育のイメージを共有することが可能となる。
- ・ 年度計画において「先進事例の調査を実施する」ことが掲げられている場合は、調査結果もあわせて添付資料とするなど、具体的成果の「見える」化をめざしてほしい。

3 項目別評価

3-1 大学の教育研究等の質の向上に関する項目別評価

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

B（おおむね計画どおり進捗している）

イ 判断理由

この項目についての小項目評価の集計結果では、小項目数28項目に対して、「年度計画を上回って実施している（Ⅳ評価）」又は「年度計画を十分に実施している（Ⅲ評価）」と評価された項目が

26項目であり、全体に占めるその割合が9割以上であることから、B評価（おおむね計画どおり進捗している）とする。

（参考）小項目評価の集計結果

小項目数	評 価 結 果				Ⅳ又はⅢの割合
	Ⅰ 実施せず	Ⅱ 十分実施せず	Ⅲ 十分実施	Ⅳ 上回って実施	
28	0	2	22	4	93%

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

(ア) 年度計画を上回って実施している項目として、次のものが挙げられる。

- ・ オープンキャンパスについて積極的な取り組みを行い、効果を上げている。（小項目8）
- ・ FD研修実施計画の策定・実施・検証は、年度計画を上回り実施されている。（小項目15）
- ・ キャリア支援推進のための文部科学省の事業への申請が採択され、活発に活動が展開されており、大いに評価できる。（小項目18）
- ・ サテライトキャンパスの活用は、成果指標を上回り実施されている。（小項目28）

(イ) その他、次に掲げる点が注目される。

- ・ 入学者選抜について、アドミッションポリシーに基づいて効果的な検証が行われている。（小項目7）
- ・ GPA制度を利用して修学指導を行うことは望ましい方向である。なお、A、B、Cなどの評価の段階数が少ない場合には一般にGPAが低く出る傾向があるので、国際通用性を視野に入れながら注意深く運用する必要がある。（小項目11）

- ・ FD研修会で成績評価法を取り上げたことは評価できる。評価法の改善は高等教育改革一般における緊急の課題である。(小項目12)
- ・ デザイン分野と看護分野が連携した分野横断的な研究が進展している点は評価される。ただし、「戦略的に重点的に」というからには、内容について骨太の方針が欲しい。(小項目21)
- ・ デザイン学部の制作系が国際展に発表しやすくするための支援に踏み切ったことは高く評価される。(小項目23)
- ・ 産業界との連携を強化する目的で地域連携担当の専門員を配置し、産業界とのネットワークづくり、学内のシーズ発掘及び研究成果の公表等、産学連携に係る機能強化を目指す計画は、着実に成果をあげていると評価できる。(小項目25)

イ 遅れている点

- ・ 卒業前学生に対するアンケート調査は実施しているものの、卒業生に対する追跡調査に関しては実施されなかった。高等教育分野では、「卒業生追跡調査」とは文字通り、卒業後、数年間を経た者に対して行う調査を意味している。卒業生は、在学者とは異なる視点から評価するので、特に、教養教育、外国語教育、課外活動などの教育課程を考えるうえで、きわめて有益な情報を得ることができる。札幌市立大学は、新設大学であるからこそ、卒業生の経年的調査が可能なので、インタビュー調査も含めた中長期の計画として、ぜひ積極的に取り組んでいただきたい。(小項目1、13)
- ・ 外部研究機関との提携協定を調印するなど、連携した取組に進捗が見られるが、今後は、具体的な研究実施に取り組んでいく必要がある。(小項目22)

(3) 評価委員会からの意見等

- ・ 共通教育科目の効果検証については、集計結果が明らかにされているものの、結果から何が言えるのか、評価できる点、課題、改善の方向などが示されていない。今後、各調査結果の考察のステップをいれることにより、新カリキュラム導入に向けた課題の整理と明確化に寄与すると考えられる。(小項目1)
- ・ ワーキンググループなどにより教育の実施の検証は行われている。ただし、「効果の検証」については、引き続き検討を重ねていく必要がある。FD研修会は「実施」(Do)を効果的に進めるためには有効な取組で大いに進めるべきだが、その性格上、効果の検証にはなじまない。検証のためには、指標の設定や評価等のために第三者的な役割を果たす組織が必要と考えられる。(小項目2)
- ・ 実践英語教育、国際事情の理解に関する教育などの共通教育科目の充実を目指す項目は重点項目ではないが、第二期中期計画では項目数が絞られているので注意して欲しい。今年度は調査ということでⅢ評価であったが、今後は、具体的な成果を求められるようになるため、次年度以降、厳しく評価される可能性がある。国際化とも関係しており、大学全体の組織的なバックアップが必要と考えられる。(小項目4)

- 学習到達度の検証はディプロマポリシー作成と同等かそれ以上に重要であるが、予定よりも進んでいるとはいえない。卒業前学生に対するアンケート調査において学習到達度に関する設問を設けることは出発点とはなり得るが、さらに多面的に評価しなければ有効なデータとはならない。
また、取組の実績をより明確に示すため、デザイン系と看護系の自己評価を分けて記述するといった配慮も必要であろう。(小項目5)
- 年間を通じて、積極的にキャリアガイダンスに取り組んでいる点は評価できる。今後は、毎回の受講者アンケートの結果分析をふまえて、参加者のニーズにも応じたプログラムの提供を目指すなど、さらなるキャリアガイダンスの充実を期待したい。(小項目17)

3-2 地域貢献、国際化、大学間連携に関する項目別評価

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

B（おおむね計画どおり進捗している）

イ 判断理由

この項目についての小項目評価の集計結果では、小項目数10項目に対して、「年度計画を上回って実施している（Ⅳ評価）」又は「年度計画を十分に実施している（Ⅲ評価）」と評価された項目が9項目であり、全体に占めるその割合が9割以上であることから、B評価（おおむね計画どおり進捗している）とする。

（参考）小項目評価の集計結果

小項目数	評価結果				Ⅳ又はⅢの割合
	Ⅰ 実施せず	Ⅱ 十分実施せず	Ⅲ 十分実施	Ⅳ 上回って実施	
10	0	1	8	1	90%

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

年度計画を上回って実施している項目として、次のものが挙げられる。

- ・ 専門職業人支援の取組の成果は2つの数値目標を上回っており、大学の知的資源を有効に地域に還元していると判断される。（小項目34）

イ 遅れている点

- ・ 共同研究費の「積極的な募集」という観点からは、メールおよびスタッフブログのみで事業を進めようとしたことには問題がある。検証・課題及び改善・今後の取組にもある通り、より直接的な形で教員に呼びかけ、内容について議論すべきである。（小項目37）

(3) 評価委員会からの意見等

- ・ 産業界等とのネットワーク構築など、中期計画に成果指標が掲げられているが、次年度から実現可能性の分析を始める必要がある。（小項目29）
- ・ 実施状況・判断理由等において、重複記載がある。観点が違うのであれば、成果を分けて記載するべき。（小項目25、29、31）
- ・ 公開講座の受講者満足度に関する指標については、成果の記載が具体的で分かりやすくなっている。（小項目32）

3-3 業務運営の改善及び効率化に関する項目別評価

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A（計画どおり進捗している）

イ 判断理由

この項目についての小項目評価の集計結果では、すべての小項目において「年度計画を十分に実施している（Ⅲ評価）」と評価されたことから、A評価（計画どおり進捗している）とする。

（参考）小項目評価の集計結果

小項目数	評価結果				Ⅳ又はⅢの割合
	Ⅰ 実施せず	Ⅱ 十分実施せず	Ⅲ 十分実施	Ⅳ 上回って実施	
8	0	0	8	0	100%

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

年度計画を上回って実施している項目はない。

イ 遅れている点

遅れている点は特に認められない。

(3) 評価委員会からの意見等

- ・ 計画通り、経営戦略が策定されており、今後は、策定した経営戦略の着実な推進を期待する。（小項目39）
- ・ 教員評価を通じて、教員の可能性が引き出されるように、見直しを行っていくことを期待する。（小項目44）
- ・ ワーク・ライフ・バランスは、人間が人間らしく活躍するために重要であり、その実現に向けて、積極的に取り組んでいく必要がある。（小項目45）

3-4 財務内容の改善に関する項目別評価

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A (計画どおり進捗している)

イ 判断理由

この項目についての小項目評価の集計結果では、すべての小項目において、「年度計画を上回って実施している (IV評価)」又は「年度計画を十分に実施している (III評価)」と評価されたことから、A評価 (計画どおり進捗している) とする。

(参考) 小項目評価の集計結果

小項目数	評価結果				IV又はIIIの割合
	I 実施せず	II 十分実施せず	III 十分実施	IV 上回って実施	
4	0	0	3	1	100%

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

年度計画を上回って実施している項目として、次のものが挙げられる。

- ・ 基金設置に関するプロジェクトチームを立ち上げ、根拠規定の整備を行うなど、積極的に取り組んでいる。なお、自主財源の充実に向けては、持続可能な資金確保について、検討していくことを期待する。(小項目49)

イ 遅れている点

遅れている点は特に認められない。

(3) 評価委員会からの意見等

- ・ 科学研究費補助金などの外部資金の申請については、申請率の改善が図られている。今後も取組を継続し、更なる申請率の向上を期待する。(小項目48)

3-5 自己点検・評価に関する項目別評価

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A (計画どおり進捗している)

イ 判断理由

この項目についての小項目評価の集計結果では、すべての小項目において、「年度計画を十分に実施している(Ⅲ評価)」と評価されたことから、A評価(計画どおり進捗している)とする。

(参考) 小項目評価の集計結果

小項目数	評価結果				Ⅳ又はⅢの割合
	Ⅰ 実施せず	Ⅱ 十分実施せず	Ⅲ 十分実施	Ⅳ 上回って実施	
3	0	0	3	0	100%

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

年度計画を上回って実施している項目はない。

イ 遅れている点

遅れている点は特に認められない。

(3) 評価委員会からの意見等

特になし

3-6 その他業務運営に関する項目別評価

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A (計画どおり進捗している)

イ 判断理由

この項目についての小項目評価の集計結果では、すべての小項目において、「年度計画を十分に実施している(Ⅲ評価)」と評価されたことから、A評価(計画どおり進捗している)とする。

(参考) 小項目評価の集計結果

小項目数	評価結果				Ⅳ又はⅢの割合
	Ⅰ 実施せず	Ⅱ 十分実施せず	Ⅲ 十分実施	Ⅳ 上回って実施	
10	0	0	10	0	100%

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

年度計画を上回って実施している項目はない。

イ 遅れている点

遅れている点は特に認められない。

(3) 評価委員会からの意見等

- ・ 図書館機能の充実に向けては、ラーニングコモンズの観点など、学習支援の場としての図書館機能の充実にしても今後、具体的に検討していく必要がある。(小項目58)
- ・ キャンパスの活用、施設の配置等に関する長期的な計画の策定に当たっては、学習スタイルの変化に対応したものにする必要がある。(小項目59)